

○資料2 福島区政の取組 経営課題ごとの事業進捗状況について

番号	委員名 (所属団体等)	ご意見・ご質問
1	横田委員 (地域活動協議会 (吉野))	地域防災事業に関する提案です。 近年、毎年のように大雨や集中豪雨によって大規模な水害が発生し、「10年に一度といわれるゲリラ豪雨」とか、今まで、あまり耳にすることがなかった「線状降水帯」等1時間 60ミリを超える降雨にたびたびに遭遇することが多くなりました。このような災害が今すぐ我々の居住環境の中で発生するかもしれません。例えば、毎時100ミリの線状降水帯が連続して発生すると雨水は道路側溝に吸収されず道路上に池のようにたまり床下浸水の被害が発生します。浸水地域では日常生活に多大な被害を受け、損害は莫大になるのは周知のとおりです。これらの被害を避けるためには大量の雨水を一時的に地下の貯水池に流す必要があります。 現在、大阪市には東淀川区・淀川区・西淀川区等に「淀の大放水路」という地下調節池（トンネル）がありますが、福島区にはありません。梅田新道（北区）から野田阪神（福島区）までの国道2号線地下40メートル（大深度地下）に地下調節池があれば被害が軽減するのではないのでしょうか。また、東京では渋谷駅東口地下25mに4000トンの貯水能力を持つ地下貯水池が活躍しているということですが、このような施設を野田阪神地下に作り、国道2号線地下トンネルと連結させれば、梅田方面の浸水対策も可能ではないのでしょうか。
2	谷口委員 (地域活動協議会 (鷺洲))	毎年5月、藤の季節を迎えると福島区内は藤の開花を楽しむ人で溢れます。 福島区には区内の藤の育成を担う「藤の会」がボランティアで各地の藤のお世話をしています。 現在会員は約40名、内10名程は福島区外の方です。藤の会は定期的に会員を募集し、冬、夏、秋の3回講習会を開催し人材の確保と育成に力を入れていますが新しい人の確保が難しい状況です。 藤の会が世話をしている区内の藤棚は下福島公園、野田阪神前、鷺洲了徳院など12ヶ所です。 藤の育成は剪定作業が1月、7月、9月に有り、花が終わった後の花柄落としを1月に行い、別途定期的に水遣りや肥料を与えたりする作業があります。 下福島公園など広い場所では数日掛かる事もあります。 2023年の剪定作業等に從事された会員は延べ381名にも成ります。 会員は40歳から70歳代の方が多く、他の団体と同様に会員の高齢化が進み、新しい人材の確保が急務となっています。 ふじの会には知識と経験が豊富で講師となって頂ける方が多く在籍しています。 福島区主導で人材育成の市民講座の開設をご提案致します。